

## 人文社会科学系 准教授 小泉 明子 KOIZUMI Akiko

専門分野

法学、法社会学、社会学、ジェンダー、憲法

人文社会科学

# 近代家族概念はどのように変容しているか

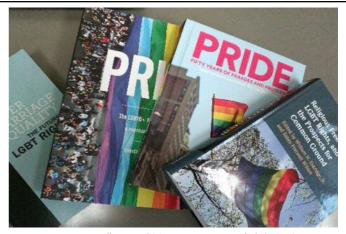
キーワード
近代家族概念、家族の価値、LGBT、同性婚、夫婦別姓

#### 研究の目的、概要、期待される効果

近代家族概念(異性婚夫婦とその子からなる家 族) が法および政策にどのような影響を与えてい るか、また家族概念がどのように変容しているか について研究しています。私領域として情緒的に 語られがちな家族ですが、特に近代以降国民国家 化に伴い、家族は国力の基盤として政治、法政策 の対象として政治に組み込まれてきました。家族 概念をめぐり、どのように法政策が動いているか が主たる研究関心です。

これまで、アメリカ合衆国を対象に、性的マイ ノリティである同性愛者たちが同性婚を求める権 利運動について研究してきました。同性婚を認め る国は2022年現在世界で32カ国となり、アメリ 力でも2015年に認められています。しかし、同 性婚は伝統的家族概念や家族の価値を壊すとして、 保守派から様々なバックラッシュが生じました。 これらのバックラッシュがどのようなものであっ たか、その中で近代家族イデオロギーがどのよう に用いられてきたかについて研究してきました。

最近は、近代家族概念とその規範性がいかに 人々の行動を規定し、時には息苦しくさせている かに興味があります。子どもの権利にも興味があ り、ゼミなどで扱っています。



アメリカで購入した性的マイノリティ関連資料など



サンフランシスコ、ピンクトライアングルパークにて。

関連する 知的財産 論文 等 小泉 明子『同性婚論争―「家族」をめぐるアメリカの文化戦争』慶應大学出版会,2020年。

#### アピールポイント

近代家族概念とその変容を通じて社会をどう 把握していくか、また性的マイノリティと言わ れる方々の法的、社会的包摂をどう考えていく かが重要だと思っています。

### つながりたい分野(産業界、自治体等)

性的マイノリティやジェンダーステロタイプ 改善に意欲的であったり、生きにくい日本の社 会構造に関心をお持ちの学校、企業、自治体、 NPOなど。